

平成30年度 東京都立松が谷高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

- (1) 学力を充実させ、生徒一人ひとりの希望進路の実現を図れる学校
- (2) 外国語コースの特色を生かした、国際理解教育を推進する学校
- (3) 特別活動・部活動を充実させるとともに、豊かな人間性や自主・自律の精神を育成する学校
- (4) 生命尊重と安全に対する感覚を磨き、自分の大切さとともに他の人の心をも大切にす気持ち
を育む学校
- (5) 地域に根ざし、地域住民の期待に応える開かれた学校

2 中期的目標と方策

- (1) 目標 新教育課程の検討
方策 新学習指導要領の告示を受け、本校の教育理念や実態に基づく適正な教育課程編成を検討する。
- (2) 目標 学力の向上
方策 高大接続改革を受け、生徒たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるよう、「確かな学力」を身につけさせることを目指した授業改善を図る。
アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの質の向上や読解力の向上を図る。
生徒の学力状況に基づき各教科で作成した「学力スタンダード」の達成に向けて、各教科で指導プログラムの更なる改善に努め、学力の向上を図る。
生徒の学力を向上させるため、生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせるための宿題や小テスト及び週末課題の出し方について組織的な改善を図る。
- (3) 目標 外国語の確実な習得
方策 外国語コースの生徒が外国語を確実に習得できるようにするため、英語科を中心に、授業等で図書館の英語多読図書 of 積極的な活用を推奨する。また英語版ビブリオバトル（書評合戦）等を実施し、普通科の生徒を含むすべての生徒の語学学習への意欲を喚起する。
外国語コースは「日常的な英会話」の次のステップとして、社会人として世界で活躍のできる人材の育成を目指すため、ビジネスに必要な討論のできる英語力を育成する指導方法の研究を行う。
英語教育推進校として、生徒の英語の4技能の着実な向上を目指す。
海外からの修学旅行生や留学生等と交流する機会を増やす。
- (4) 目標 規範意識の向上
方策 生徒の規範意識を向上させるために、生活指導部を中心に、年度当初に「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画を策定し、全教職員による組織的な生活指導を行う。また特別指導の指導計画を策定し、問題行動発生時の一連の対応を明確化する。
- (5) 目標 希望進路の実現
方策 生徒の希望進路実現のために、進路指導部を中心に、年度当初に教科「人間と社会」を含むキャリア教育の全体計画を策定する。「人間と社会」については新しい学習指導要領の改訂も踏まえ継続して検討する。各担任の個人端末に導入している進路指導システムの効果的な運用を支援する。
- (6) 目標 意欲ある受検生の獲得
方策 本校を第一志望とする意欲ある受検生を確保するために、教務総務部を中心に、組織的な募集・広報活動を行う。学習塾等を対象とした説明会を開催する。
- (7) 目標 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成
方策 自殺願望を抱いたり、SNS や Twitter などに誘われ若者が重大な事件に巻き込まれたりするのを防ぐため、自尊感情の醸成や生命を尊重し豊かな人間性を育む人権教育を実施す

る。

学年担任やスクールカウンセラー等と連携し、不登校気味の生徒に対する情報を共有し早期に対応できるよう組織的に対応する。いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施し、気になる兆候が見られた生徒に早期対応することで、不登校の一因ともなるいじめの芽を摘む。

(8) 目標 環境・健康教育と防災教育の充実

方策 環境・健康教育を充実させるため、保健部を中心に各学級におけるごみの分別を徹底させるための啓発活動を行う。また保健便りを発行し、生徒の健康に関する理解啓発を推進する。

防災教育を充実させるため、教務総務部を中心に宿泊防災訓練を含む年4回の防災訓練を実施する。防災教育推進委員会と連携し、生徒の防災に関する意識を向上させる。

(9) 目標 部活動の充実と体力の向上

方策 部活動を通して豊かな人間性・社会性を備えた生徒を育成するとともに、規範意識の向上を図る。また、「アクティブプラン to 2020 -総合的な子供の基礎体力向上方策(第3次推進計画)-」に基づき、生徒の体力向上に努める。

スポーツ特別強化校の指定を受けた部活動を中心に競技力の向上を図る。

(10) 目標 オリンピック・パラリンピック教育と国際理解教育の充実

方策 東京オリンピック・パラリンピック開催時に、生徒が自ら特技である英語を活かして、訪日外国人観光客等に対する英語ボランティア活動等に積極的に取組める能力や態度を育成する。オリンピック・パラリンピック教育推進委員会及び国際理解委員会を中心に、海外の訪日教育旅行生や留学生との交流等を通じた国際理解教育を充実させる。

(11) 目標 思いやりのある心の育成

方策 近隣小中学校をはじめとする地域諸機関と積極的に連携、地域行事への参加や学習ボランティア活動など、社会貢献活動を通して生徒の健全育成を図る。

(12) 目標 ライフ・ワーク・バランスの推進

方策 教職員が心身の健康を保持し生徒指導ができるよう、効率的な職務遂行を目指す。教職員の業務の見直しを行い、ライフ・ワーク・バランスの推進を図る。

3 今年度の取組目標と方策

I 教育活動の目標と方策

(1) 教育課程の検討

- ・次期学習指導要領に向けた新しい教育課程の検討を行う。教育課程検討委員会を開催し、改訂の趣旨に即した教育課程の編成や各教科間の調整を行う。
- ・「総合的な探求の時間」「理数」の具体的な検討を行う。探求学習、課題研究等の検討。

(2) 学力の向上について

- ・「確かな学力」の伸長と、高大接続改革を視野に入れ、すべての教科で読解力、記述力、集団討論、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ・特に1学年は、新しい調査書に対応する活動の記録(ポートフォリオの作成)を行う。
- ・全英研作文コンテストや、レシテーションコンテスト、人権メッセージなどに参加するよう、組織的・計画的に取り組む。
- ・教科担当者は「生徒による授業評価」結果による授業改善を行い、授業、適切な小テスト・課題を行い、「学力スタンダード」を達成し、全体層の引き上げを行う。
- ・1、2学年の段階では、大学進学希望者には志を高く持たせ、第一志望の大学を一般受験する強い意欲を持ち続けるよう、学年集会や進路行事(「大学生の話聴く会」等)、面談を通じて生徒の意識を醸成する。保護者会等を通じて一般受験のメリットを保護者に啓発する。
- ・1、2学年で英語プラス1教科(文系は国語、理系は数学)の基礎学力を固め、一般受験で希望する進路を実現できる学力を身につけさせるために、宿題や小テスト、週末課題など、生徒の自宅学習時間を増やすための取組を行う。

- ・生徒に思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を育成するため、主体性をもって多様な人々と協議して問題を発見し、解決策を見出していく「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学習の充実に取り組む。アクティブ・ラーニング推進校2年目の取組として、すべての教科でアクティブ・ラーニングの授業を実践する。年3回の研究協議会を行う。
 - ・授業改善と若手教員の授業力を伸ばすために、授業公開、研究授業、校内研修、生徒による授業評価等の推進と充実を図る。
 - ・定期考査等の情報を各家庭にタイムリーに提供して、保護者とも連携しながら生徒の家庭学習の習慣を定着させる。
 - ・学力診断テスト実施後に分析会を行い、担任・各教科担当が生徒の学習習慣や学力を的確に把握し、改善方法を検討する。
 - ・個に応じた学力向上を図るため、数学と英語において習熟度別授業を実施する。
 - ・組織的に1、2年生の補習指導、3年生の講習・補習指導を実施し、生徒のニーズに応じていく。
 - ・ビブリオバトル予選の実施等を通して、図書館の活用、読書活動の啓発を図る。
- (3) 外国語の確実な習得
- ・英語教育推進校として音声・リーディングソフトウェアを活用した、生徒の英語の4技能の着実な向上を目指す。
 - ・英語教育推進のために、図書館の英語多読図書の活用を推進する。外国語コースの授業で、英語版ビブリオバトル(書評合戦)を実施し、普通科の生徒に対して授業で多読を行う。
 - ・夏季休業日中に希望者による2泊3日でイングリッシュ・サマーキャンプを実施する。
 - ・1学年全員を対象に、東京グローバル・ゲイト・ウェイ(英語村)での語学研修を実施する。
 - ・海外からの修学旅行や留学生の受け入れ生徒が体験できる機会を増やす。海外研修の次年度実施に向けた検討を行う。
 - ・英語検定の受験を推奨し、PC LL 機器の教育ソフト"e-learning"を活用した学習を推進する。
 - ・1、2年生全員を対象にGTEC for studentsを実施し、生徒の英語力の伸長について、データの蓄積及び分析を行い、その後の指導に活用する。
- (4) 規範意識の向上について
- ・授業規律を身につけさせるため、年度当初にチャイム着席の励行、机上の飲み物等やスマートフォン・携帯電話の使用禁止について指導基準を明確にし、全校体制で指導に取り組む。また、これまで通り授業を受ける態度、姿勢に関する指導期間として「学習態度習慣定着月間」「同見直し月間」を設けて重点指導する。
 - ・①交通ルールの遵守、②挨拶の励行、③頭髪・身だしなみ等に関する校則の遵守、④時間厳守、⑤チャイム着席等の授業規律の確立という5つの目標の達成に向けた指導を組織的にを行い、生徒の規範意識を育成する。特に職員室におけるマナー指導を徹底する。
 - ・「生活指導統一基準」による生徒の自己管理能力の向上と社会の規範意識の育成、マナー育成を図る。
 - ・特別指導の指導計画を策定し、問題行動発生時の一連の対応を明確化する。
 - ・事故防止に向けて、自転車の安全教室を開催する。
 - ・薬物乱用防止についての指導を行うとともに、インターネット、携帯等の正しい利用に関する指導も強化し、ネット犯罪の被害・加害とネットいじめ問題等の防止を図る。
- (5) 希望進路の実現について
- ・入学時からキャリア教育プログラム、進路指導計画にそって、進路指導部を中心に、全学年が統一感を持った計画的、組織的な進路指導を行う。
 - ・高大接続改革や大学共通テスト、外部英語検定試験など、新しい大学入試制度の情報を生徒・保護者にタイムリーに発信する。
 - ・進路指導部と学年が連携し自己管理能力育成を目指した記録表の記入により生活全般を見直す。
 - ・生徒の進路意識を高め進路指導の充実を図るため、進路指導講演会や進路ガイダンの他大学

- の学部・学科ガイダンスや大学教授による模擬講義、現役大学生との交流等を実施する。
- ・教員による進路指導・進路相談の充実を図るため、模試データ等の指導資料をシステム化し、データに基づいた進路指導を定着させる。さらにデータの精度を高めるために3年の6月、9月、10月、11月の4回模試を実施する。同時に大学・短大進学希望以外の生徒に対しても同日に充実したプログラムを実施する。
 - ・進学を支援するため、長期休業日に組織的な講習指導を実施する。
 - ・早期からの進路指導、データ蓄積のため1、2学年で基礎学力テストを実施する。
 - ・学習、生活、進路等に関する生徒の情報共有化を図るため、拡大学年会（担任一教科担当連絡会）を実施する。
 - ・家庭との連携を図り生活指導、進路指導を充実させるため、三者面談期間を設定し実施する。
- (6) 意欲ある受検生の獲得
- ・外国語コース説明会は、英会話以外にも英語多読など、本校の外国語コース教育の特色が十分に伝わる内容にして、学校説明会と一体化し、全校体制で開催する。
 - ・学校広報の充実を図るため、中学校訪問、学校説明会、部活動体験及び夏季休業日中の学校見学会を実施する。
 - ・学習塾等が主催する外部の説明会、東京都の合同説明会、多摩南部地区合同説明会等についても前年度の状況を精査し、計画的に人員派遣を行う。
 - ・学習塾等を対象とした説明会を開催し、高大接続改革に向けた本校の取組を積極的にPRする。
 - ・ホームページの更新を頻繁に行い、教育活動を積極的に発信する。
- (7) 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成について
- ・SNSの使い方やモラル等、年1回以上セーフティ教室などの機会を設定し注意喚起する。また、日頃から情報の授業やホームルーム等でSNSの功罪について指導する。
 - ・生徒、保護者の悩みに対応するため、専門性のあるスクールカウンセラーに繋げるよう努力する。教育相談委員会を中心に、いじめや不登校の予兆の早期把握に努める。
 - ・不登校気味の生徒や中途退学の可能性のある生徒には、必ずスクールカウンセラーの面談を行う。
 - ・いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施して、早期対応を心がける。
 - ・日常の授業、特別活動全てを通してこころの教育、人権教育を行う。
 - ・自殺予防に向けて、SOSが発信しやすいよう悩みを受け止める温かな雰囲気づくりを行う。
 - ・地域の特別支援学校や中学校等と連携し、校内の特別支援教育推進体制を充実させる。
- (8) 環境・健康教育と防災教育の充実について
- ・学習に適した環境を維持するために、保健部が主導して環境委員を中心とした指導をする。
 - ・教科「人間と社会」について、学年担任や進路指導部等と連携して内容を検討する。
 - ・環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組む。
 - ・安全・安心な学校づくりのために、安全教育、防災教育の充実を図る。セーフティ教室を全学年対象に実施するとともに、宿泊を伴う防災訓練も含め、年4回避難訓練を実施する。併せて防災活動支援隊の活動について、ガイドラインに沿って検討する。
- (9) 部活動の充実と体力の向上について
- ・部活動への参加を促し、一層の活動活性化を図る。
 - ・部活動指導の方法を点検し、徹底して体罰の根絶を図る。
 - ・部活動保護者会や各部活動のお便りを通して体罰根絶に向けた取組を周知し、活動の透明化を図る。
 - ・スポーツ強化特別校の指定を受けた部活動の競技力の向上を図る。また、すべての部活動で競技力の向上が図れるよう、指定を受けた部活動の取組を他の部活動に生かす。
 - ・東京都統一体力テストの実施と記録会を行い、生徒が課題を持って体力向上に取り組むとともに生涯を通じ未病で過ごすための意識の向上を図る。
 - ・地域におけるスポーツ振興のため、中高連携事業等を通して中学生との交流活動を実施する。

- (10) オリンピック・パラリンピック教育と国際理解教育の充実について
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催時に、英語力を活かしたボランティア活動に参加できる生徒の能力と態度を育成するため、産業労働局の「おもてなし親善大使育成塾」への生徒の参加を推奨する。
 - ・ESS 同好会の部員等を中心に、JET 青年と連携し、オリンピック開催時の外国人観光客への英語による観光ボランティアに関する研究を行い、引き続き海外の修学旅行生・留学生を校内に招き、多数の生徒が体験できる場を設ける。海外研修の機会を検討する。
 - ・国際理解教育推進のため、外部講師による講演会を開催する。
- (11) 思いやりのある心の育成について
- ・学校設定科目「交流体験学習」を設置し、学修を実施する。
 - ・中高連携事業、地域連携事を積極的に行い、生徒の社会貢献意識を涵養する機会を増やす
- (12) ライフ・ワーク・バランスの推進
- ・部活動外部指導員など、学校を支える人員体制を確保し、部活動の負担の軽減を図る。
 - ・各委員会・分掌会・学年会、教職員からのアンケートなどで、校内の業務の見直しを進め、解決策を検討する。
 - ・毎回会議の上限時間を設けた上で計画的な業務の進め方により業務の効率化を目指し、在校時間を縮減する努力を行う
 - ・ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた環境整備を行う。月ごとに残業時間の平均を掲示し(無記名)、見える形で目標を設定する。
 - ・昨年度残業時間の10%減を目標とする。

II 経営企画室の目標と方策

(1) 経営企画室の経営参画の推進

- ・年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強めて学校全体としての共通理解をもち、経営企画室の経営参画を推進して、各課題の解決を図る
- ・自律経営予算の計画的・適正な編成と効率的な予算執行に努める。
- ・センター執行率を前年度以上にする。
- ・生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら施設、設備の定期的点検を実施し、速やかな対応を行う。

III 重点目標と方策

上記 I の (1) 学力の向上と、(2) 外国語の確実な習得及び (9) 部活動の充実と体力の向上についての三つを重点目標と位置づけ、今年度の学校経営を行う。

[数値目標]

内 容	目 標	備 考
学校評価アンケート授業満足度	80%以上	学校評価における生徒の肯定的割合 (前年度75.4%)
GTEC for students	前年度のスコアより向上	
中堅私大の合格者数	40名以上	日本・東洋・駒沢・専修の合計合格者 (前年度23名)
学校評価アンケート部活動満足度	80%以上	学校評価における生徒の肯定的割合 (前年度76%)
部活動加入率	85%以上	部活動加入状況調査の報告時 前年度84%
学校見学会、説明会参加者数	4000名以上	見学会、説明会、入学相談会の合計 (前年度3873名)
長期休業中の講座数と講習・補習の参加人数	前年度以上	32講座 563名
自宅学習時間 (授業以外で自習する) の	毎日1時間以上を30%以上	1年15%、2年27%、

確保		
イングリッシュ・サマー・キャンプ、海外の修学旅行生誘致等による英語体験行事の満足度	75%以上	73.6%
学校評価における本校満足度	90%以上	前年度89.6%
読書の推進 ブリオバトル含む読書の意欲	1, 2 年次の生徒の肯定的評価 37%以上	前年度生徒35.2%
英語検定2級、準2級取得者数	2級 23名以上 準2級 40名以上	2級20名 準2級36名
ホームページの更新回数	110回以上	